

ぼうえい

東海防衛だより

2023
令和5年

春



五条川の桜並木（写真提供：江南市）

春号の主な内容

- ◆ 陸上自衛隊V-22 オスプレイの明野駐屯地における離着陸等訓練
- ◆ 漁業協同組合連合会会長への感謝状贈呈（伊勢湾掃海訓練）
- ◆ 愛三岐のまちから（明和町）
- ◆ 東海3県の防衛生産・技術基盤（旭精機工業株式会社）
- ◆ 令和6年度防衛省職員採用のご案内

令和5年春号より名称を「TOKAI」から「ぼうえい」に変更しました。みなさまに我が国の防衛について「関心を持っていただきたい」「手に取っていただきたい」という思いから、この名称にしたものです。



陸上自衛隊V-22オスプレイの 明野駐屯地における離着陸等訓練

令和5年1月23日、陸上自衛隊のV-22オスプレイ（2機）が、東海3県には初めて、三重県に所在する陸上自衛隊明野駐屯地に飛来し、離着陸等訓練を実施しました。

V-22オスプレイを運用している輸送航空隊は、隊員などの輸送を任務としており、その任務の遂行に当たっては、様々な飛行場な

どへの飛行や離着陸に関する技能の習得などが必要となります。

V-22オスプレイの暫定配備先である千葉県の陸上自衛隊木更津駐屯地のみならず、各地の演習場や駐屯地などを使用した訓練の実施が不可欠であることから、今回、明野駐屯地に飛来したものであり、今後も年数回程度の飛行が見込まれて

います。

V-22オスプレイ着陸後、明野駐屯地周辺の地方公共団体の関係者の皆様を招き、格納庫において、機体に関する性能及び安全性などの説明を行いました。

実際の機体にも搭乗してもらい、機体内部の機器などについて説明を行いました。



明野駐屯地飛来時



明野駐屯地着陸時



格納庫内収容時



機体搭乗



機体説明

陸上自衛隊V-22オスプレイについて

陸上自衛隊V-22オスプレイは、回転翼機と固定翼機の特長を併せ持ち、固定翼機が離着陸するための飛行場がない離島においても離着陸が可能です。

また、陸上自衛隊が現在保有している輸送ヘリ（CH-47JA）に比べ、最大速度が約2倍、航続距離及び飛行高度が約3倍と極めて高い性能を有しています。

このため、V-22オスプレイは、島嶼への侵攻対処だけでなく、災害救援や離島の急患輸送でも能力を発揮します。

現在、陸上自衛隊木更津駐屯地に暫定配備されていますが、今後、島嶼部への侵攻に対処する部隊である「水陸機動団」が所在する長崎県の陸上自衛隊相浦駐屯地に近い佐賀空港へ配備するよう調整しています。



固定翼モード



回転翼モード

【機体の安全性】

- オスプレイは、米国政府が安全性・信頼性を確認した上で量産されたものです。
- 政府は、米オスプレイの普天間飛行場への配備に先立ち独自に安全性を確認しています。
- 平成26年、我が国もオスプレイを導入することを決定しましたが、その検討過程のみならず、導入が決定された後においても各種技術情報を収集・分析し、安全な機体であることを再確認しています。

【機体の安全性の再確認】

V-22の操縦・整備要員の一部分が米海兵隊の教育課程を修了したことを踏まえ、改めて機体の安全性を再整理

- 民航機も採用している確立された技術を導入し、操縦士の負荷が適切に軽減された操縦性能
- 十分な運用実績を有し、安全性が確認されているエンジン
- 十分な整備が可能であり、高い信頼性が確認されている「ナセル（エンジンを収容している両翼端の円筒部分。ナセルが水平で固定翼モード、ほぼ垂直で回転翼モード）」
- 飛行に重要な各種機能は補完性が幾重にも確保されており、万が一の際もバックアップ可能
- 高度にシステム化されて、人的ミスが起きる可能性を局限している機体整備

【オスプレイの配色】

オスプレイの機体は上下で塗装の色が異なりますが、上部は海の色、下部は空の色に合わせており、角度によって見つけにくいよう工夫されています。

感謝状贈呈（東海防衛支局管内）

やましたみちお
山下三千男愛知県漁業協同組合連合会会長

ゆあさ まさと
湯浅雅人三重県漁業協同組合連合会会長



令和4年11月1日の自衛隊記念日に際して、山下三千男愛知県漁業協同組合連合会会長及び湯浅雅人三重県漁業協同組合連合会会長に対し、近畿中部防衛局長からの感謝状を宮原東海防衛支局長より贈呈しました。

両氏は、伊勢湾での掃海訓練の実施について、強力なリーダーシップをもって安定的な訓練の実施に大きく貢献されました。

漁業協同組合連合会会長への感謝状贈呈
(伊勢湾掃海訓練)



掃海訓練の様子



硫黄島での掃海訓練（実機雷処分）の様子



機雷とは

水中で爆発する兵器の総称を水雷と呼び、水深など一定の条件で爆発するものを「機雷」と呼びます。

その特徴は、地雷と同様の独立性を持ち船舶に大きな被害を与えられること、加えて海中のどこにあるのか分からない高い隠密性を持ち、さらに仕掛けてから長期にわたり威力を発揮することができます。

戦後までさかのぼります。太平洋戦争が終わった昭和20年当時、我が国の沿岸海域には、米軍及び日本海軍が敷設した約5万5千個の機雷が残存していました。これらの機雷による船舶の沈没や損傷は昭和27年までに166隻に上るもので、これらの機雷を除去し、海上交通の安全を確保することが、我が国復興上の急務とされました（航路啓開業務）。

航路啓開業務は昭和60年で終了しましたが、港湾の浚渫訓練を実施しています。

現在、硫黄島、陸奥湾、日向灘及び伊勢湾の4力所で実施しており、硫黄島においては、唯一、実機雷を使用した訓練を実施しています。

「掃海」の歴史は古く、終戦後までさかのぼります。太平洋戦争が終わった昭和20年当時、我が国の沿岸海域には、米軍及び日本海軍が敷設した約5万5千個の機雷が残存していました。これらの機雷による船舶の沈没や損傷は昭和27年までに166隻に上るもので、これらの機雷を除去し、海上交通の安全を確保することが、我が国復興上の急務とされました（航路啓開業務）。

掃海訓練とは、海上自衛隊の掃海艦艇や掃海ヘリコプターを使用し、機雷の除去・処分や敷設を行う能力の維持向上を図るものであり、我が国沿岸の海域で定期的に実施しています。

時など、いまだに当時の機雷などが発見されており、海上自衛隊は、今もその除去（処理）作業に従事しています。伊勢湾においては、気象・海象条件が比較的穏やかであり、海底に岩礁などの障害物が少ないなど、掃海訓練に適しており、平成22年度から始まり、令和元年度からは、日米共同訓練として実施しています。

「愛三岐のまちから」



三重県

明和町
めいわちよう



めい 姫



せこくち てつや
世古口 哲哉 明和町長

【誰もが住みたい、いつまでも
住み続けたいと思えるまち】

明和町は、昭和33年に1町1村が合併して誕生し、三重県の中央に位置しており、面積41.06キロ平方メートルで、東は伊勢神宮がある伊勢市に、西は松阪市に接し、北は伊勢湾に面しています。

地形は、町の南部では緩やかな丘陵地帯、中央部から北部にかけては、平坦な平野であり、西側には榎田川の分流である祓川（はらいがわ）、中央部を笹笛川、伊勢市との境を大堀川がそれぞれ南北に貫流し、伊勢湾に流れており、水田の広がる農業地帯となっています。

当町には、斎宮駅（さいくうえき）周辺

に南北約0.7キロメートル、東西約2キロメートル、約137.1ヘクタールにも及び国史跡「斎宮跡（さいくうあと）」があります。「斎宮跡」とは、天皇に代わり伊勢神宮に仕えた斎王（さいおう）の宮殿と役所に関する遺跡で、斎王は卜定（ぼくじょう）という方法で未婚の皇族女性から選ばれ、都を離れ国の平安を祈りました。その斎宮跡を学び体験できる「斎宮歴史博物館」や約千年前にあった位置に復元した建物がある「さいくう平安の杜」などが斎宮駅周辺にあります。

また、本町の運営指針としましては、まちづくりを総合的かつ計画的に実施するため、令和3年3月に10年間の第6次明和町総合計画を策定いたしました。第6次総合計画は、行政と地域が一体となった住民協働のまちづくり「みんなで作るまちづくり」を基本理念としています。

人と地域と行政、それぞれが世代や地域を超えてつながり、豊かなところを育むまち、こどもと地域の未来をみんなで育みながら支えあうまち、そして、誰もが地域の魅力や史跡斎宮跡をはじめとする歴史や文化、温もりを実感できるまちの実現に取り組むことにより、誰もが住みたい、いつまでも住み続けたいと思えるまちを目指して、現在、取組を進めているところです。

【自衛隊との関わり】

当町にとって、近くに航空学校本校を併設した陸上自衛隊明野駐屯地があることは、身近で親しみ深く、また災害発生時を想定した場合、大変心強い存在です。

当町で実施する総合防災訓練においても、炊き出し訓練や救出訓練などご協力をいただいているところです。

当町にとって、自衛隊の皆さんのご支援が大きな力となっています。今後においても、様々な活動を通じて、連携体制をより強固なものとしていけるよう願っています。



斎宮跡（復元建物）



斎王まつり

東海3県の防衛生産・技術基盤

防衛の一端を担う高度な技術

旭精機工業株式会社

旭精機工業株式会社の歴史

旭精機工業株式会社は、昭和14年に前身である大隈鉄工所旭兵器製作所として操業を開始し、戦後の一時期の中断をはさんだ後、昭和28年8月に旭大隈工業として再開しています。昭和36年東洋精機株式会社から銃弾の製造販売に関する営業権を譲り受け、以後我が国唯一の小火器弾薬メーカーとなり、同年社名を旭精機工業株式会社に変更しています。



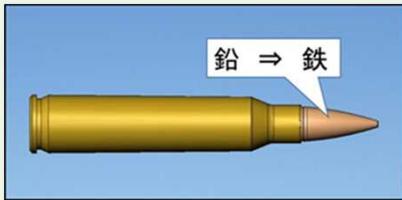
<旭精機工業株式会社（本社）>

小火器弾薬の無鉛化

小火器弾薬の無鉛化については、弾薬及び雷管に使われていた鉛を廃止し、代替素材に置き換えることで演習場・発射場などの環境問題の改善に配慮し開発されたものです。

人体に有害な鉛を使用しない弾薬は「無鉛弾（むえんだん・むなまりだん）」と呼ばれています。

この弾薬は、有効射程距離、命中精度、貫通力などを損なうことなく環境問題に対応し、製造時のコストの上昇も抑制されています。



<無鉛化の一例>

絞り加工



<加工イメージ>

絞り加工とは、金型を用いて金属に圧力を加えて変形させ、徐々に板状の材料を筒状に整形する技術となります。同社は、その中でも、より深く絞る「深絞り加工」を得意としています（加工イメージ参照）。

同社は、高い信頼性と均一性が要求される小火器弾薬の薬きょう等を絞り加工により製造しています。

この「絞り加工」の技術は、民生品である自動車・家電・情報通信をはじめ、あらゆる生活関連分野にも活用されています。

<絞り加工製品の一例>

- エアコンの熱交換器配管
- 万年筆のペン先及びクリップ
- 配電ブレーカー内部
- 自動車エンジンのセンサー
- 水回りの給水及び排水用配管
- ガス配管 など



<絞り加工製品>

防衛生産・技術基盤

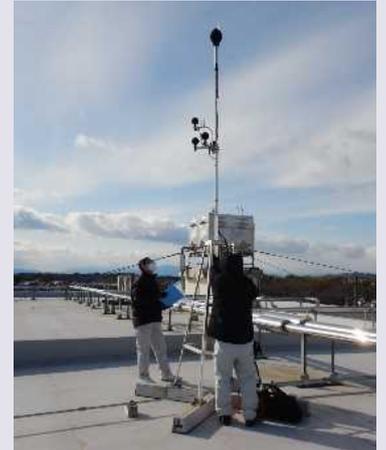
同社は、絞り加工の技術を磨いてきました。また、無鉛弾の開発研究を進めるなど、我が国の防衛に必要不可欠である小火器弾薬の安定した製造・供給を継続し、防衛生産・技術基盤の一端を担っています。

令和6年度防衛省職員採用のご案内

東海防衛支局は、人事院が実施する国家公務員採用一般職試験の合格者から職員を採用しています。

【業務概要】

事務官として、自衛隊の活動などについて、地方公共団体や地域住民の方々の理解と協力を得るための業務や防衛施設周辺地域にお住まいの方々の生活や福祉の向上を図る業務などに従事します。



東海防衛支局では、年間を通して職員採用イベントを開催しています。イベントの詳細については、その都度、当支局HPなどに掲載します。また、職員採用イベントは、東海北陸エリアに所在する防衛省各採用機関（陸上自衛隊、航空自衛隊、防衛装備庁）と合同で開催する予定です。防衛省の業務に興味のある方はぜひ参加をご検討ください。



【令和6年度職員採用イベント開催スケジュール】

- ・3月中旬：国家行政官庁ツアー
- ・6～7月上旬：業務説明会／現場説明会【大卒程度採用対象】
- ・7～8月：官庁訪問【大卒程度採用対象】
- ・8月中旬：採用面接【大卒程度採用対象】
- ・10月中旬：業務説明会【高卒程度採用対象】
- ・11月中旬：採用面接【高卒程度採用対象】

東海防衛支局ホームページ
「採用情報」

<https://www.mod.go.jp/rdb/tokai/saiyou/saiyou.html>



人事院ホームページ
「国家公務員試験採用情報NAV I」

<https://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.html>



自衛隊地方協力本部からのお知らせ

※ 地方協力本部（地本）は、各都道府県にある自衛隊の総合窓口です。

愛知地方協力本部

（電話）052-331-6266

<https://www.mod.go.jp/pco/aichi/>



●「自衛隊 広報ROOM」（名古屋市南村区椿町21-2 第3太閤ビル1F）

自衛隊の活動などの写真パネルや模型、オートバイ（偵察用）などを展示している楽しめるスポットです。年間3回ほど、自衛隊グッズがもらえるイベントも開催していますので、ぜひ、お気軽に遊びにきてください。

岐阜地方協力本部

（電話）058-232-3127

<https://www.mod.go.jp/pco/gifu/>



● 自衛隊広報センター「自衛館」（岐阜市神田町9-4 KJビル1F）

自衛隊のパネルや装備品を展示しています。中でも、F-4ファントム模擬コックピットは実機の部品を使った本物そっくりなもので、操作レバーの重さや計器に囲まれた雰囲気は一級品です。F-4コックピットのここだけしかない出来ない体験をしにきてください。

三重地方協力本部

（電話）059-225-0531

<https://www.mod.go.jp/pco/mie/>



● 各種イベントや自衛隊に関する情報を紹介！

左記アドレスのHPで各種イベントやZOOMによる自衛隊説明会の案内などを行っています。また、本部ご来訪時には、レアなグッズが手に入るかも？！

厳しい安全保障環境に対応するための我が国の安全保障政策の大きな転換を示す「国家安全保障戦略」・「国家防衛戦略」・「防衛力整備計画」の概要について、防衛省ホームページに掲載しています。

<https://www.mod.go.jp/j/policy/agenda/guideline/index.html>



発行：東海防衛支局広報誌編集委員会

〒460-0001 愛知県名古屋市中区三の丸2-2-1 名古屋合同庁舎第1号館

電話052-952-8212

2023年（令和5年）春号（通巻第54号）

<https://www.mod.go.jp/rdb/tokai/>

